チャレンジ！！オープンガバナンス 2022 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名（注１）	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	-（事務局用）	ワクワクするサイクリングライフをもっと効果的に発信したい	高砂市
チームがつけたアイデア名（公開）（注２）	サイクリストが結ぶ「わくわく御縁高砂」プロモーションプラン		

（注１）地域課題名は、COG2022 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注２）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

１．応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	Code for Harima	
チーム属性（公開）	１．市民、２．市民／学生混成、３．学生	**2**
メンバー数（公開）	５名	
代表者（公開）	福田　宏司	
メンバー（公開）	野方　純、水野　あすか、畑　悦子	

【注意書き】※　必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

１．　応募の際は、ファイル名を COG2022_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2022 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2022@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

２．　アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

３．　公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示ー非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja、および、https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja　をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。https://creativecommons.jp/licenses/）

４．　上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）

５．　この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

６．「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。

７．「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2．の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧下さい。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○

2．アイデアの説明（公開）　　(1) アイデアの内容（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。
必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたくなる**、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**わくわく感のあるアイデア**を期待します。**２ページ以内**でご記入ください。

＜応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください＞

自転車好きを通して情報がどんどん拡散して行く仕組みを作り、さまざまな世代が楽しむことができるサイクリングによって高砂市を好きになってもらいたい！　サイクリストが縁を結ぶシティプロモーションプランです。

＜この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます＞ ＜アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。＞
＜よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です＞

1　「わくわく」する情報が自動で拡散するしくみ
～餅は餅屋を活用せよ！～
＊　自転車好きの集まる SNS でアピールする
＊　アンバサダー※1 に PR したい場所を回ってもらう
＊　芸能人や有名 Youtuber のように、社会的影響力のあるインフルエンサー※２による情報発信
＊　インスタなどの手近な SNS による常時情報発信

※１　公式、非公式問わずにブランド、商品、イベントなどを無償で宣伝広告する人。ここから転じて、公式に対価を得て同じような役割をする有名人もアンバサダーと呼ばれる。

※２　世間に与える影響力が大きい行動を行う人物のこと。その様な人物の発信する情報を企業が活用して宣伝すること

2　「わくわく」しながら安全運転をまなぶ
～中高生に支持される安全運転講習を実施せよ！～
＊　BMX やマウンテンバイクなど、若い世代が憧れる存在の方に交通安全教室を開催してもらう
＊　交通事故データを分析したり、身近な場所の地図に書き込んだりするデジタルワークショップの開催
＊　話題の電動 3 輪自転車ノスリスを活用した、体力に不安のある方への安全運転研修

3　データを活用して地域を「わくわく」させる
～ICT で地元を元気にせよ！～
＊　自転車で走った分だけ地域通貨がたまって、地域のお店を応援できる仕組みづくり
＊　オープンデータを活用し、高砂市のヴァーチャルツインでサイクリングを楽しむ

2．アイデアの説明（公開）　　(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明**してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

＜このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます＞

＜先の（１）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます＞

1　「わくわく」する情報が自動で拡散するしくみ

～餅は餅屋を活用せよ！～

高砂市の公式インスタグラム：フォロワー　1,624 人　424 投稿

公式ツイッター：なし

高砂コンベンションビューローのインスタグラム：フォロワー

ハッシュタグ　#みてみて高砂　投稿 500 件以上

#高砂わくわく自転車プロジェクト　20 件未満

（いずれも 12 月 17 日現在）

年代別で見ると、10~20 代の若者の約 6 割は、ツイッターやインスタグラムを利用しているようです。LINE にいたっては、10~40 代の利用者はいずれも 8 割弱となります。（調査会社の株式会社テスティー調べ）

公式アカウントであれば、インスタグラムのデータ分析は可能です！

今すぐできます、公式アカウントを作成し、データ分析を行いましょう！

ちなみに、サイクリングの投稿が少ないのですが、投稿者は自転車を利用されていますか？＿

ある自転車乗り（私）のインスタ投稿は、メインアカウントよりもフォロワーの少ない自転車アカウントでの投稿のほうが、閲覧数が多いのです。#ロードバイク主婦、#ロードバイクおばさんなどのタグが付いていますｗｗ

自転車好きは、他のライダーが出かけている投稿を見行き先を決める、といっても過言ではありません！

実際に私はそうです。もちろん行ったらその場所を投稿するので、自動的に投稿が増えていくのです！

#高砂わくわく自転車プロジェクトこのタグをつけて投稿してくださっている方は、おそらく近隣のローディ（ロードバイク乗り）の方です。

そういう方にアンバサダーとして、投稿頻度を上げて、PR していただいてはいかがですか？

インスタの投稿で、一般募集をすればいいのです！　できれば、高校生からお年寄りまで、幅広い年齢層がいいですね。

また、閲覧数が多い Youtuber にレンタサイクルで市内を回ってもらってもいいでしょう。

お隣加古川市では、俳優の上野樹里さんが地元のゆかりの場所を自転車で回っておられます。

1 話目　https://youtu.be/UfwMkJ_u9t4

人気 Youtuber　さんも　加古川を爆走　https://youtu.be/QPeM1CHcAkI

こういったインフルエンサーさんに頼むのもいいと思います。

報酬に、地元のお店や神社で使えるクーポンなどをお渡しすれば、地域のお店も元気が出ますし、高砂駅周辺の路地裏にあるカフェを、自転車で回って投稿してもらえば、カフェ好きの人も自転車を借りてくれることでしょう！

観光ビューローでは、そんな投稿をどんどんリポストしていきましょう！

2 「わくわく」しながら安全運転をまなぶ

高砂市は１７、１８年度発表で兵庫県下の自転車事故
　ワースト１位、１４～１６年度発表でも同３位（神戸新聞（2022/12/10）　）
https://www.kobe-np.co.jp/news/touban/202212/0015878773.shtml
　兵庫県警の資料を見ても、高砂市は本当に自転車事故が多いそうです。お隣加古川市では、自転車事故が多いのは、高校生だそうです。市では、小学生対象に交通安全教室を実施しておられますね。
　基本的な交通ルールを知ることはとても大切です。
　でも、事故が多いのは高校生。高校生に受け入れられる、楽しんで受けられる講習を考えました。
　地元自転車店と協力した BMX のパフォーマンスを見たり、同じ県内の神鍋高原のようにマウンテンバイクで市ノ池公園からダウンヒルをやってみるなど、高校生が楽しめるイベントとセットアップした、トップアスリート（かっこいい大人）が教える交通安全教室を提案します。
　自分たちが若いころを思い出してください。危ない、まじめに乗りなさいって言われて、素直に聞いていましたか？
　どんな場所が危険か、自分たちでデータ分析して地図に落とし込むのもいいですね。オープンデータを活用して、我々 Code for　Harima も協力できそうです。デジタルワークショップもいいですね。
　高齢者の自転車事故も多いですよね！もちろん自動車事故も心配です。高齢者向けの交通安全教室もいいでしょう。　体力に不安のある方にも優しい、話題の電動三輪自転車の「ノスリス」を導入された高砂市さん。
　ノスリスの稼働率を、ぜひ上げていきましょう！

3 データを活用して地域を「わくわく」させる

　自転車利用のメリットは、環境負荷が少ないこと、健康増進などいろいろありますよね。　　出典　本田技研工業
　ガソリン代も高騰していますし、お財布にも優しい。車と違って、景色もゆっくり楽しむことができます。
　自転車に乗ると、乗った分だけ地域通貨がたまる仕組みはどうでしょうか？　地元のお店でクーポン化して使えたら、うれしくてインスタ投稿したくなります。そうしたら、情報がさらに拡散して、自転車通学の高校生たちも嬉しいかもしれません。地元の人も、観光目的の方も、通勤利用の方もみんなで高砂市を盛り上げましょう。

　自転車事故も心配ですが、自動車メーカーの本田技研工業株式会社さんのホームページで、自転車事故の多発箇所も公開されています。
　自分たちで危ないと思った個所を簡単に登録できてデータが残るので手軽にデジタルワークショップもできそうです。もちろん、オープンデータを活用した、OpenStreetMap も有効です！

　また、国土交通省では、**Project PLATEAU** を展開し、都市の３Ｄモデルの実相を展開しています。
　高砂市がこれに参画して、観光に生かすのはどうでしょうか？ヴァーチャル空間でサイクリングをする、Zwift というソフトウェアも世界中で流行しています。あのツール・ド・フランスに出場するプロの選手もトレーニングで使っています。
高砂市の３Ｄモデルと連携できれば、天気も時間も選ばず世界中の人がサイクリングで楽しむこともできます。
　私だったら、高砂市の３Ｄの空間をゲームで再現して、、、
高砂市が誇るあのファンタジー武器屋さんとコラボレーションしたゲームで遊んでみたいなぁ・・・

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1．実現する主体
2．実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3．実現にいたる時間軸を含むプロセス

1．実現する主体

高砂市
一般社団法人 高砂市観光交流ビューロー
この取り組みに賛同する地元のお店や観光スポット

2．実現に必要な資源

地方創生推進交付金
デジタル人材（地域情報化アドバイザー、デジタル人材、シビックテックなど）

3．実現にいたる時間軸を含むプロセス

3 月　・Code for Harima による高砂市の自転車道の OSM マッピング、Mapillary への投稿

春・夏ころ　・地元の情報を発信してくれるアンバサダーを任命、随時情報発信の開始
・市ノ池公園でダウンヒルイベントの開催

秋ころ　・インフルエンサーによるサイクリング情報の発信
・自転車パフォーマンス×交通安全イベントの開催

冬ころ　・地方創生自転車イベントのスタンプラリーと地元の協力店舗とコラボした地域通貨導入を見据えた実証実験（仮）

3 月ころ　高砂市が国土交通省による Project PLATEAU で高砂市のデータ公開

4 月以降　随時オープンデータを活用したハッカソンの開催などの実施
情報発信は常時継続する